



令和7年度 画像保存セミナー



日本写真学会では、次世代に伝えるべき価値ある写真画像、動画、およびその他の記録物の確実な保存を目指し、そのための技術の共有と知識の普及を目的に、1984年から画像保存セミナーを毎年開催しております。今年で42回目を迎えますが、近年ではデジタル技術の進展に伴い、記録物もデジタル化が進んでいます。その一方で、物体としての画像、映像の保存の重要性もますます高まっており、セミナーアンケートでは、両者に関する技術共有が要望されています。

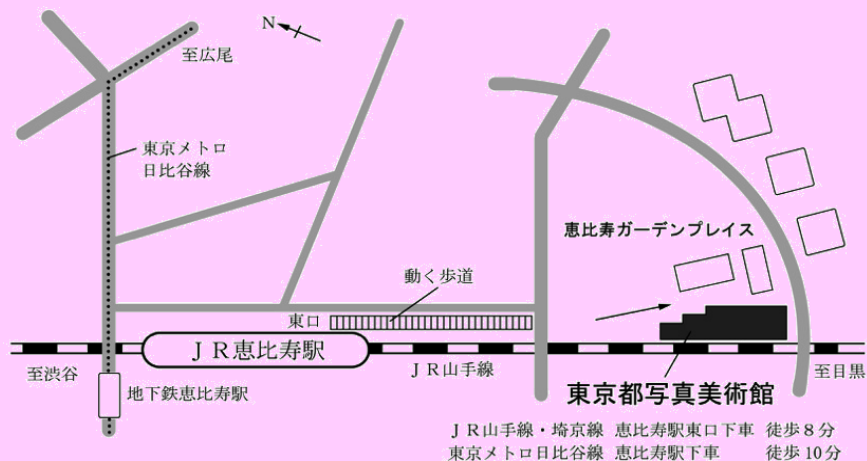
今回のセミナーでは、6名の講師の方々をお招きして、ご講演いただきます。物体としての「モノ」の保存という観点からは、日本の湿板写真の歴史・特徴と制作技法、失われた写真技法「写真油絵」の復元、写真保存の過去・現在・未来、国による文化財としての写真資料の保護のあり方、写真の保存額装を予定しています。また、デジタル分野では、人工知能が読み解く行動様式のアーカイブ：体験型映像インスタレーションの試みに関する講演を行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

このような多岐にわたる内容が、ご参加の皆様にとって参考あるいは有益な情報となることを願っております。画像保存に関心のある方、関連分野の多くの方々のご参加を賜りたく、案内申し上げます。今年はセミナー終了後、講演者と参加者が自由に情報や意見の交換をしていただける情報交換会も予定しております。

日時：2025年11月7日(金)10時20分～17時50分 <10:00受付開始>

場所：東京都写真美術館1階ホール

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 一般社団法人日本写真学会

協賛：日本写真芸術学会／公益財団法人日本博物館協会／公益社団法人日本写真家協会／
一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会／アート・ドキュメンテーション学会
一般社団法人画像電子学会／一般社団法人日本印刷学会／一般社団法人日本画像学会

協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：一般社団法人文化財保存修復学会、日本アーカイブズ学会

セミナープログラム

10:20 開会挨拶 セミナー実行委員長

10:30 講演 1. 湿板写真を知る：日本の湿板写真の歴史と特徴および制作技法

|

国際日本文化研究センター 安藤 千穂子

11:30

田村写真

田村 政実

ネガ・ガラスの湿板法が19世紀半ばの西洋で発明された。間もなく、ネガ自体を加工してポジとする湿板写真のアンプロタイプが考案されて日本に伝わり、西洋とは異なり長く愛好された。主に日本の湿板写真の特徴を、歴史やハウジング方法等をふまえて紹介する。1851年に発表された湿板写真は今でも当時の様に制作できる。手作りでこんなにも精細な写真を生むプロセスを、順を追って解説する。また、湿板ネガとアンプロタイプの違い、コロジオンの特徴、保存性の良さにもふれ、今後の課題も紹介する。

11:30 講演 2. 失われた写真技法「写真油絵」の復元

|

東京大学史料編纂所 谷 昭佳

12:30

西洋由来の写真と油彩が日本文化に融合していく過程でひととき開花した、失われた明治期の写真技法「写真油絵」の復元について紹介する。この日本独自の着色写真が生み出された背景と技術を明らかにして、修復や保存の方策、新たな作品制作による技法の再興に繋げたい。

－ 休憩（60 分）－

13:30 講演 3. 写真保存の過去・現在・未来

|

日本大学 高橋 則英

14:30

1984年の第1回画像保存セミナー以来、写真保存と写真史分野での40年に渡る経験に基づき、写真保存が歴史的にどのような経緯で発達したかを振り返るとともに、銀塩からデジタルへと基盤技術の転換が進んだ現代における写真保存の意義と今後の展望について述べる。

14:30 講演 4. 文化財としての写真の保存と活用

|

文化庁文化財第一課 地主 智彦

15:30

平成11年（1999）に銀板写真・島津斉彬像（鹿児島・島津興業所有）が重要文化財指定をうけてから、はや四半世紀を経過した。この間の写真の文化財の調査・指定・保存・活用の経緯、事例を紹介し、成果と課題を共有する機会としたい。

－ 休憩（15 分）－

15:45 講演 5. 写真の保存額装について

|

西丸 雅之（元PGI）

16:45

写真を長期保存するためには、展示しないことが望ましいが、現実にはそうもいかず、できる限り作品に負担をかけない額装が求められる。美術館やコレクターの多くの写真コレクションの額装に携わってきた経験をもとに、写真の保存額装について解説する。

16:45 講演 6. 人工知能が読み解く行動様式のアーカイブ：体験型映像インスタレーションの試み

|

東京工芸大学芸術学部 野口 靖

17:45

東京工芸大学工学部 大海 悠太

人間や動物の行動様式を記録した「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」の映像に対し、行動や振る舞いという観点から、人工知能と人の手でタグ付けを行った。そのタグ情報をもとに生物の多様性と普遍性を横断的に可視化した、体験型映像インスタレーションの試みを紹介する。

17:45 閉会挨拶 日本写真学会会長

＊各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音は講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので禁止させていただきます。

参加申し込みについて

セミナー参加費（講演要旨集代を含む）

日本写真学会および協賛・協力・後援学協会々員.....6,000 円
非会員.....8,000 円
学 生.....2,000 円

☐非会員の方：参加申込前に入会手続きを取って頂ければ、会員価格での参加が可能となります。

（入会申込はこちらから⇒ <https://forms.gle/nYmhzmGfXZEsWaoG8> ）

☐日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。）

定 員 **180 名**（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

申込締切 **2025 年 10 月 31 日（金）**

なお、締切を過ぎても定員を満たしていない場合は申込の受付延長を行います。

参加申込と参加費支払方法

☐参加希望の方は、イベントサブドメイン <https://www.spj.jp/category/event/others/>

の「令和7年度画像保存セミナー」ページの【参加申込】該当する参加区分を選択して参加登録（Google Forms）に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから参加費をお支払いください。

☐直接申込の方はこちらの参加申込フォーム ➡ URL：<https://forms.gle/8pSkJfpUKAE7xb8z7>

申込QRコードははこちらから ➡

☐支払方法は、クレジットカード、Apple Pay または Google Pay が利用できます。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、ご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。



情報交換会

講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり情報交換会を開きます。参加ご希望の方は、参加申込フォームの懇親会への参加（Google Forms）に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから情報交換会会費をお支払いください。

日時：当日 11 月 7 日 18 時 15 分より

場所：**The TEST KITCHEN**（恵比寿ガーデンプレイス グラススクエア B 1 F）

会費：5,000 円

☐セミナー参加申込時に情報交換会不参加とされた方で、情報交換会に参加希望の方は、10月31日（金）までに info@spj.jp の方に連絡をお願いします。

連絡先

一般社団法人 日本写真学会事務局 画像保存セミナー係

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内

E-mail：info@spj.jp Tel：03-3373-0724 Fax：03-3299-5887

日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。
また、学会 HP（下記 URL）からも申し込めます。

年会費： 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

一般社団法人 日本写真学会 事務局

〒164-8678 東京都中野区本町 2－9－5

東京工芸大学内

Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887

入会申込URL <https://forms.gle/nYmhzmGfXZEsWaoG8>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

一般社団法人 日本写真学会

会 長：中野 寧 副会長：加藤 隆志 山田 勝実

画像保存セミナー実行委員会

委員長：山口 孝子（東京都写真美術館）

委員 ：岩本 康平（日本写真学会）

大関 勝久（名古屋大学）

大林 賢太郎（京都芸術大学）

酒井 秀一（富士フイルム）

白岩 洋子（白岩修復工房）

水口 淳 （カメラ・写真技術解説家）

吉田 英明（OMデジタルソリューションズ）

綿引 雅俊（インフォマージュ）

（五十音順）

要旨集デザイン：岩崎 仁 （日本写真学会）

事務局：山岸 治 （日本写真学会）